

# 「する協定書」の履行状況について

## められていることを確認～

- ・共同プロジェクトの研究スケジュールは、令和2年度以降の研究工程で示した関連する課題のスケジュールと同様となること。
- ・共同プロジェクトにおける各年度の研究内容は、令和2年度以降の研究工程で示した関連する課題の研究内容と同じになること。
- ・共同プロジェクトの進捗に伴い、令和2年度以降の研究工程で定める研究工程（研究期間・実施内容）を前倒して、共同プロジェクトの研究を行う場合、事前に研究工程の変更に係る説明が必要であること。

### (3) NUMOの参加と公表について

- ・共同プロジェクトへの参加を予定していたNUMOについては、協定書に署名（令和5年4月3日）し、参加したこと。
- ・共同プロジェクトの業務で幌延深地層研究センターにNUMOが訪問する際には、機構の職員が必ず帯同し、共同プロジェクトを実行するための現場確認及び技術的な打合せの目的のみで深地層の研究所に立ち入ることを確認すること。
- ・共同プロジェクトに関し、その活動状況のほか、NUMO等の参加機関が訪問した場合の対応状況（関係者の訪問日時、目的、所属等）については、幌延深地層研究センターのホームページで情報発信を行うとともに、確認会議や住民説明会などで公表すること。

### 3 情報公開・情報発信・理解促進について

- ・掘削工事の進捗状況は、幌延深地層研究センターのホームページでの公開などにより積極的な情報公開を行うとともに、次年度以降の研究成果報告書への記載を行うほか、確認会議や住民説明会で、進捗状況を報告すること。
- ・各研究項目について、毎年の研究成果報告書において、これらの成果が逐次得られていることやスケジュールに遅れが生じていないことを広く周知すること。
- ・研究内容に関し、道民から質問等が多く寄せられている事項については、より丁寧な説明を行う必要があること。
- ・ホームページについて、情報が整理され、一般の方でもわかりやすい説明の工夫を行っているが、情報量が多いことから、今後も情報の受け手の「分かりやすさ」に配慮したホームページの構成とする必要があること。

なお、三者協定の履行状況に係る確認結果の通知にあたり、引き続き三者協定を遵守のうえ、幌延深地層研究計画を着実に進めていただくよう原子力機構へ改めて求めました。

広報調査等交付金事業

## 気象台一口メモ

### 冬の地震・津波に備える

北海道ではこれから本格的な冬を迎えますが、冬に地震や津波が起きると、一般に夏よりも被害が大きくなると言われています。

その要因として、まず暖房器具の使用によって火災が発生しやすくなること、積雪の影響による屋根からの落雪や家屋の倒壊、急傾斜地でのなだれなどが挙げられます。

また、冬に津波が発生した場合は、海上に浮かぶ流氷や陸上にある雪や氷の塊などが漂流物となって押し寄せ、建物が破壊されるなどの被害が発生することがあります。

そして何より、寒冷地では避難のための身支度に時間がかかり、路面や吹雪などの状況によっては移動にも時間がかかるほか、ライフラインが停止した場合は、自宅や避難所などでの寒さ対策も必要となります。

ですので、水・食料の備蓄以外にも、電気に頼らない暖房器具や、防寒着・防寒シート・毛布・使い捨てカイロの用意、揺れによる屋根からの落雪やなだれ等を想定した避難経路の確認、普段からの整理整頓など、いざというときのためにできる準備をしておきましょう。

お問い合わせ先 稚内地方気象台 電話 0162-23-2679

